

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2025 年 12 月 19 日作成 第 1.0 版

研究課題名	緊急心臓胸部大動脈手術を受けた患者における術前内服抗血栓薬の実態と術後転帰に及ぼす影響に関する観察研究
研究の対象	2018 年 1 月～2025 年 12 月の間に、横浜市立大学附属病院心臓血管外科において緊急で心臓・胸部大動脈手術を受けた患者さんを対象とします。
研究の目的	高齢化に伴い、抗血栓薬（いわゆる“血液サラサラの薬”）を処方される患者さんは増えていますが、どれくらいの方が、何を処方されているのかは不明です。またそういった方が手術を受ける際には、通常一定期間の休薬が必要ですが、緊急手術の場合は十分な休薬期間が取れない場合も多くあります。その場合、術後の出血増加が危惧されますが、抗血栓薬の種類と出血量等についての報告は少なく、明らかにしておく必要があります。この研究では、緊急手術を行った方のうち、術前抗血栓薬の種類別内服頻度、および種類別の術後出血量等を検討することで、今後の医療に役立てることを目的としています。
研究の方法	診療録から情報を収集して、緊急の心臓・胸部大動脈手術を受けた際の内服薬の種類や時間、術後の出血量、輸血量を解析し、これらの関係性について検討します。 いずれも通常の診療で得られた情報を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究期間	西暦 2026 年 3 月 18 日（研究機関の長の許可日） ～ 西暦 2026 年 12 月 31 日 情報の利用を開始する予定日：西暦 2026 年 3 月 18 日（研究機関の長の許可日）
研究に用いる情報の項目	【情報】診療録から以下の情報を収集します。 <ul style="list-style-type: none">・ 背景情報：年齢、性別、既往歴等・ 術前内服抗血栓薬の内容、用量、最終内服時間・ 血液検査の結果：ヘモグロビン濃度、血小板数、フィブリノーゲン値等・ 手術情報：術式、緊急度、手術時間、人工心肺時間等・ 術後出血：ドレーン出血量、輸血量等・ 術後経過
情報の授受	本研究では、外部機関との情報の授受はありません。 情報は、当院で少なくとも 5 年間保管しますが、個人が特定できないよう加工した情報については、本研究の目的以外の学術研究に用いられる可能性または他の研究機関に提供する可能性があるため、保管期間終了後も期間を定めず保管します。 廃棄する際は、個人を特定できないように処理した上で、復元できない方法で廃棄します。

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

個人情報の管理	情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう管理する表（以下、対応表）を作成して、識別コードから個人を特定することが可能になりますが、その対応表は当院外へ提供することはありませんので、当院外の機関が個人を特定することはできません。
情報の管理について責任を有する者	当院の個人情報の管理責任者は病院長であります。その責務を以下の者に委任され管理されます。 研究責任者：横浜市立大学附属病院 心臓血管外科 小林 由幸
利益相反	利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の関係を含むものです。 本研究は資金を要しない研究です。必要になった場合は研究責任者が負担して実施します。本研究に関わる研究者には、開示すべき利益相反はありません。
研究組織（利用する者の範囲）	【研究機関と研究責任者】 横浜市立大学附属病院 心臓血管外科 （研究責任者）小林 由幸
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて研究の対象の方もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究の対象の方に不利益が生じることはございません。ただし、拒否のお申し出をいただいた段階で既に研究結果が公表されていたときなど、データから除けない場合があります。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 心臓血管外科 （研究責任者・問い合わせ担当者）小林 由幸 電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-786-0226</p>	